

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立川通中学校)

学校番号 250

【様式】

目指す学校像	○安全かつ安心して学び、生活できる学校○学が喜びを実感できる学校○活気にあふれ、あいさつがとびかう明るい学校
--------	--

重点目標	1 ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現 2 安全・安心な学校に向けた積極的な生徒指導ときめ細かな教育相談体制の充実 3 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 4 学校課題研修及び職員研修を通じた教職員の資質向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○令和5年度全国学力・学習状況調査では、国語、数学、英語において、全国、県平均正答率を下回っている。 ○令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が全国、県平均を上回っている。  (課題) ○基礎学力の向上が課題である。学習の仕方を提示し、家庭学習を含めた継続的な学習習慣を身に付けさせることが必要である。	・生徒の学力、学習状況や課題を把握し、それを踏まえた個別最適な学びの推進  ・学ぶ喜びを実感できる協働的な学びの実現	①全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果を基に、市教委の学力向上カウンセリング研修を受けることにより、正確な実態把握と自校の課題解決に繋げる。 ②スタディサプリ等を学校や家庭で活用し、個別最適な学習を進め、基礎学力の向上を図る。 ③川通中チャレンジカップを実施する。	①学力向上カウンセリング研修を実施し、分析結果をもとに、今後の指導に生かすことができたか。 ②学校評価(生徒・保護者)の家庭学習や基礎学力の定着に係る項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ③基本事項の繰り返し指導や授業の振り返りなどを継続して行い、生徒それぞれの学習への取組状況を確認し、個々の努力を承認できたか。	①指導主事を招聘し、学力向上カウンセリング研修を行った。全国学力・学習状況調査の本校の結果をもとに、実態把握や分析の仕方を学び、今後の指導に役立てることができた。 ②「家庭学習」の保護者の肯定的回答が昨年度を下回ったが、それ以外は昨年度を上回った。 学校評価「家庭学習」に係る項目 生徒 67.9%(R5 61.6%) 保護者 44.7%(R5 51.5%) 学校評価「基礎学力」に係る項目 生徒 81.4%(R5 81.3%) 保護者 63.2%(R5 61.6%) ③基礎基本の定着を図る川通中チャレンジカップを毎学期、各教科で実施し、個々の努力を承認した。	B	本校の学力の実態を適切に把握し、学力向上につながるために、学力向上カウンセリング研修は次年度も継続して実施する予定である。 家庭学習の定着や基本的な学習習慣には課題を感じている保護者が多くいるため、スタディサプリ等の教材を家庭でも効果的に活用してもらうように保護者にも促していく。 日常的な基礎的な学習を図る川通中チャレンジカップを継続的に実施し、できた喜びを実感させ、学習意欲を持たせていきたい。	・家庭学習の習慣については、小中連携で行うことが必要ではないか。  ・基礎学力の定着は、学びの連続につながるペースとなる部分であり、学習習慣の定着を図ることが大切になってくる。小中で足並みを揃えてやっていきたい。
2	(現状) ○令和5年度全国学力状況調査・令和5年度市学習状況調査の「学校に行くのが楽しいか」との質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国、県、市平均を上回っている。 ○生徒指導や教育相談に関する対応について、該当学年を中心に組織的に迅速に対応している。 ○校舎等老朽化が目立つ。  (課題) ○配慮を要する生徒個々への対応が課題である。個に応じた支援や相談体制をより一層確立することが重要となる。 ○自転車の乗り方のマナー指導の徹底をはじめ、学校周囲の環境に関わる安全指導が必要である。	・積極的できめ細かな生徒指導の推進・教育相談の充実  ・安全な生活実現に主体的に取り組む生徒の育成	①スクールダッシュボードにより、生徒の変化を早期に発見し、いじめ対応や教育相談上の悩みを抱えた生徒に対し、迅速に組織的に対応する。 ②校内教育支援センター「Sola るーむ」を開設し、個に応じた多様な学びの場の確保や生徒一人ひとりに寄り添った支援を行う。	①学校評価(生徒・保護者)のいじめやその他の相談等に関する項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ②生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に組織的に対応できたか。	①生徒・保護者ともに昨年度を上回った。 学校評価「いじめや相談等への対応」に係る項目 生徒 98%(R5 96%) 保護者 72.4%(R5 70.7%) ②校内教育支援センター「Sola るーむ」を開設し、個に応じた多様な学びの場を確保し、対応している。また、さわか相談員、SC、SSW等の校内専門職と連携を図り、一人ひとりに寄り添った支援を行っている。 ○教職員の意識として、昨年度より上回る回答であった。 学校評価「いじめの早期発見、組織的対応」に係る項目 教職員そう思う 52.6%(R5 47.4%) 肯定的回答 100%(R5 100%) 学校評価「教育相談体制の整備、十分な機能」に係る項目 教職員そう思う 31.6%(R5 26.3%) 肯定的回答 94.8%(R5 89.5%)	A	次年度も、全教職員で全生徒に支援・対応する意識を継続し、小さな変化を見逃すことなく、高いアンテナと幅広い視野をもって、一人ひとりの生徒を大切に、迅速に対応していきいく。 専門職や専門機関と積極的に連携を図り、個々が抱える悩みや相談事等に丁寧に寄り添い、組織的に支援する。そして、生徒や保護者と信頼関係を構築し、一人ひとりが安心して過ごすことができる心的環境を整える。	・並列走行など、学年によって自転車の乗り方に課題がある。 ・ヘルメットの着用や見通しの悪い場所、狭い道路など、川中生の日頃の様子をみているとよくできている生徒が多いと感じる反面、できていない生徒との差がある。その差を埋める指導が必要。 ・いじめや不登校の状況をみて、先生方の関わりがよいと感じる。多様化してきている課題に対して、今後、保護者どう関わっていくかが課題である。 ・子どもをとりまく悩みが複雑になってきている現状の中で、専門職・専門機関との連携がさらに重要となっている。
3	(現状) ○本校は地域の伝統校として認知されており、地域が学校にたいへん協力的である。そのため、地域と連携を図った教育活動が企画しやすい境下にある。 ○令和5年度全国学力状況調査の「今住んでいる地域の行事に参加しているか」との質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国、県平均を下回っている。  (課題) ○地域との交流活動を積極的かつ計画的に行っていく。 ○学校外のような地域活動で子どもが参加できる機会を確保していく。	・子どもが主役となるコミュニティ・スクールの推進  ・開かれた学校づくりの推進	①学校運営協議会等で生徒が参加できる場を設定するなど、子どもが主役となり、エージェンシーが発揮される場面や機会を創出し、社会の担い手となる人材を育成する。 ②地域と連携した防災教育を通じて、災害時に「自助」「共助」ができる子どもを目指し、長期的な展望として避難所設営を補助できる力をつけさせる。	①地域活動等で、生徒が参加できる機会を設定できたか。 ②学校評価(生徒・保護者)の地域の一員に関する項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。	①学校運営協議会で、代表生徒が学習の成果を発表する機会を設定した。また、1年生がフィールドワークを実施した際、地域の事業所や自治会館を訪問し、地域の方々の話を聞く機会を設定した。PTA主催の防災フェアでは、生徒会や部活動を中心に参加した生徒が20名程度、自主的に参加した生徒も20名程度いた。学校安全の研究発表では、地域やPTA本部役員にも参加していただき、授業中に生徒が学習した内容を大人に説明する機会も設定できた。 ②生徒の「そう思う」割合は上回ったが、肯定的回答では下回った。保護者は上回った。 学校評価「地域の一員」に係る項目 生徒 そう思う 38.5%(R5 30.5%) 肯定的回答 74.4%(R5 75.7%) 保護者 そう思う 13.2%(R5 12.1%) 肯定的回答 52.7%(R5 45.4%)	B	「地域の一員として、地域の様子に関心をもち、自分ができることを考えているか」の学校評価では、他の項目と比較すると、生徒、保護者共に低い結果である。 次年度は、「地域を知る」「地域のためにできることを考える」「地域の大人に発信する」機会をすべての学校教育活動において意識的に設定し、地域とともに社会の担い手となる人材を育成していく。	・PTAや地域での活動を実施しているつもりではいたが、地域行事への参加に対する生徒の認識や参加率が低いことに驚いた。地域行事への中学生の参加方法について新たに企画していく予定なので、ぜひ中学生に参加してほしい。 ・青少年育成会主催の地域行事に今年度から中学生ボランティアを募集し、数名参加してもらったところ、小学生や大人たちからは非常に有難がられた。ボランティア証明書も発行し、校長先生に表彰してもらったこともよかった。参加者を増やすために、PTAとしても力を入れたいし、学校からも発信してもらいたい。
4	(現状) ○令和5年度学校評価(教職員)「時間外勤務の短縮、業務の効率化等、業務改善が進んだか」の項目において、63.2%の教職員が肯定的な回答をしている。 ○教職員の平均年齢が低い。  (課題) ○全教職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと教職員の資質・組織力の向上。 ○働き方改革をさらに推進し、教職員の負担感を減らすことが課題である。 ○経験年数の少ない教員への指導法の継承が課題である。	・学ぶ意欲の高い教職員集団の育成と協働、協働し合える組織力の向上	①学校課題研究「学校安全」の研究推進を図るため、校内研修を計画的・組織的に実施して学び合い、指導力・組織力を高める。 ②ダッシュボードを活用した「教え方改革」と資料等のICT化を活用した「働き方改革」の推進。 ③教職員の資質向上に関わる校内研修を年間4回以上実施する。	①学校評価(生徒・保護者)の安全教育・防災教育に関する項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ②学校評価(教職員)働き方改革の項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ③学校評価(教職員)校内研修の項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。	①生徒・保護者ともに、昨年度を上回った。 学校評価「安全や防災への意識」に係る項目 生徒 98.1%(R5 96.1%) 保護者 85.57%(R5 74.7%) ②「そう思う」割合は上回ったが、肯定的回答では下回った。 学校評価「働き方改革」に係る項目 教職員そう思う 10.5%(R5 5.3%) 肯定的回答 47.3%(R5 63.2%) ③教職員の意識として、昨年度を上回った。 学校評価「校内研修」に係る項目 教職員そう思う 26.3%(R5 5.3%) 肯定的回答 100%(R5 84.3%) 指導主事を招聘した全体での校内研修を3回、指導主事による指導案検討を各学年2回程度実施した。また、服務や生徒指導・教育相談、ICTの効果的な活用方法等、校内での職員の資質向上に係る研修を毎学期1回以上実施した。	A	今年度は、「学校安全」の研究推進を中心とした研修により、教職員の学ぶ意識と組織力が高まった。次年度は、今回の意識を継続させるべく、研修や校内でのOJTを充実させ、学び合いながら資質能力や指導力の向上に努める。 教職員にとって働きやすい環境づくりの実現にむけ、組織的に業務改善を図っていく。	・働き方改革と休日の地域行事との兼ね合いが難しい。 ・フィールドワークで自治会を訪問する取組は非常によかった。 ・給食試食会を通して、食育を通じ、地元の食材等について日頃から指導を重ねていることがすばらしく、こうした指導で地域愛も育まれていくと感じた。地域愛が芽生えるような教育活動を意図的・継続的に行ってほしい。

学校運営協議会による評価

実施日 令和7年2月28日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

